

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1491400097
法人名	社会福祉法人 一燈会
事業所名	グループホーム はなの里
訪問調査日	平成27年3月24日
評価確定日	平成27年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491400097	事業の開始年月日	平成25年11月1日	
		指定年月日	平成25年11月1日	
法人名	社会福祉法人 一燈会			
事業所名	グループホームはなの里			
所在地	(〒259-0143) 神奈川県足柄上郡中井町北田414			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月20日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年3月24日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①グループホームはなの里は社会福祉法人一燈会の経営です。以前は関連会社の株式会社キャッツハンドの経営でしたが、組織を再編し、平成25年12月からグループホームは全て社会福祉法人一燈会の経営となりました。社会福祉法人一燈会グループは、神奈川県のご宮・中井・開成町で、特養・老健・デイサービス・高齢者専用賃貸マンション等の介護関連事業を広く展開しており、グループホームも5事業所運営しています。介護の関連事業は株式会社ケア・ドウに集約し、介護ショップ、配食、館内清掃等の事業を担当します。医療と介護が連携し、地域福祉の中心的役割を果たすことをグループの狙いとしています。このホームは、JR二宮駅からバスで内陸方向に20分、徒歩5分の田園風景の豊かな地域にあります。白壁に茶色の窓枠の瀟洒な2階建の建物で、内部は広々として明るい雰囲気があります。関連施設のザ・中井プライムも平成25年10月から開所しています。</p> <p>②法人の理念「誰よりもお客様の身になって」を玄関に掲示し、職員全員が名札に入れて携帯しています。この理念の実践を図るために、日々の支援に結びつく数項目の言葉にして、事業所理念、各ユニット理念を毎年作成しています。理念の根幹は「優しさを持って利用者に接する」ことであり、カンファレンスで「利用者の喜ぶことは何か」などの問いかけをしています。職員は、利用者の笑顔と、ご家族の感謝を頂く事によりモチベーションを上げるという好循環を生みだし、職員間の理念の共有化の向上が見られます。</p> <p>③この法人の特色として、職員は、基本的にすべて常勤職員で、少数精鋭の方針を取っています。このホームの職員層は若く、向上心も旺盛で、介護福祉士等の資格試験取得や、福祉の講習会・研修に参加しています。また、パソコンによる職員間の情報共有が原則であり、利用者情報の「お客様シート」と職員間業務情報の「CW(ケアワーカー)シート」の2種類を基本シートとし、毎日、職員が情報を記載し、情報の種類により色分けを行い、一目で何に関する情報かが分かるようにしています。居室担当は毎月ケアカンファレンス前に担当利用者の準備項目を用意し、それに基づき、皆で討議するきめ細かいケアを実施しています。一燈会の教育方針は「人を育てる」(次期リーダー候補)と「上を望まない人も大切に」を設定し、地域の就労を支えつつ、きめ細かいケアが出来る体制を目指しています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム はなの里
ユニット名	加藤 ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を初め、全職員は事業所の理念を作る用に努め、その理念を共有して実践を行うように日々努めている。	法人は企業理念と品質目標を示しています。法人の理念「誰よりもお客様の身になって」は玄関に掲示し、職員全員が名札に入れて携帯しています。この理念及び品質目標の実践を図るために、日々の支援に結びつく数項目の言葉にし、事業所理念、各ユニット理念をKJ法等ど活用して毎年作成しています。理念の根幹は「優しさを持って利用者に接する」ことであり、カンファレンスで「利用者の喜ぶことは何か」などの問いかけをしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園との交流の機会を必ず設け、交流を行なっている。 又日常的に近所への行事参加・散歩やドライブ・近所の理髪店への散髪などに出掛け、地域の方とのふれあいの場を設けるようにしている。	地元の自治会に加入し、自治会の回覧版を回してもらい、行事（お祭り、どんど焼き等）に招待を頂き、利用者が参加しています。近隣の保育園とは、長年、交流が続いており、保育園の行事（7・5・3、お遊戯会、運動会等）は利用者の楽しみになっています。地域のボランティアの方々による書道・詩吟・ハーモニカ教室を毎月行っています。中学生の職業体験も受け入れています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の行事への参加を呼びかけ交流する事で、理解を深めていただける様に実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での日々の取り組みや活動状況を報告している。 又会議参加者からの貴重なご意見も参考とし、サービス向上へと繋げている。	運営推進会議は、メンバーの自治会役員・包括支援センター・中井町役場・ご家族・地域ボランティア・主治医に案内し、実施しています。会議では施設での日々の取り組みや活動を報告し、参加者からの貴重な意見を頂いて参考とし、サービス向上に繋げています。関連施設のザ・中井プライムも平成25年に開所し、見学の要望を受け、中井町の一燈会の行事に併せて運営推進会議を開催して好評を得ています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場へ立ち寄った際には、施設での状況報告を行うようにしている。困った事・相談したい事等がある際には協力を求め、積極的に関わりを持つようにしている。 市町村からの電話相談なども行えている。	町役場は近隣でもあり、よく立ち寄り、その際には施設での状況報告を行うようにしています。困った事・相談したいこと等がある際には協力を求め、積極的に関わりを持つようにしています。包括支援センターも町役場の中にあり、空き室情報は連絡し、支援をお願いしています。役所経由で元ケアマネとの連携が取れるなど、密接に協力出来る体制があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りが出来ない状況であったり、脱園・行方不明などの可能性がある場合はやもえず玄関の施錠はさせていただくが基本的には施錠は行なってはいない。 リビングの出入り口は必要時以外は開放するように努めている。職員への身体拘束をしないケアについての知識・理解・教育を行っている。	職員への身体拘束をしないケアについての知識・理解・教育を徹底しています。身体拘束が必要なケースがあれば、ご家族の同意を得て、期間を定めて行うことになっています。転倒のリスクについては入所時に充分説明しています。玄関の施錠は行わず、リビングの出入り口は必要時以外は開放するように努めています。言葉の拘束についてはその都度注意しています。職員間の情報共有シートがあり、各職員が新たな情報や伝達事項をその都度書き込み、いつでも閲覧出来るようにしています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされないように伝達や注意をこまめに行ない防止へと努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での勉強会や資料の共有などは行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族等の不安・疑問点へは十分な説明・理解・納得できる様努めており、了承を得てから安心してサービスの利用ができる様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へは日々ご要望に沿えるよう支援・サービスを行うよう努めており、ご家族様へは面会時や電話・手紙などで職員から施設での様子・近況報告を必ず行うようにしている。遠方のご家族様も同様に電話や手紙にて様子報告をこまめにとるようにしている。又ご家族様からのご要望も同時に聞くようにし、サービスの向上へと努めるようにしている。	ご家族へは、面会時や電話・手紙等でこまめに居室担当職員から施設での様子・近況報告を行うよう努めています。その為ご家族との関係が密で、ご家族からも忌憚のない要望・意見を聞いています。また、利用者の要望は日々の支援の中で伺っています。これらの要望・意見は新PCシステムの中の個人別状況の中に記載しています。新PCシステムソフトは導入して間もないこともあり、前のシステムと使い勝手が少し違いますが、様子、情報、報告したこと、承諾頂いたことなどを書き込めるようになっていきます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こまめに職員と関わる時間を設け、コミュニケーションを計り、意見や提案をサービスへ反映させるようにしている。	職員の意見は基本的にはミーティングで聞くようにしています。ユニットリーダーが、それぞれのユニットの職員と関わる時間をこまめに設け、コミュニケーションを図り、意見や提案をサービスに反映させるようにしています。施設長は、職員の自主性を重んじ、職員の自由な発想を重要視して、何でも聞く姿勢が職員からの提案を活発化させています。面接は年2回フロアリーダーが行い、個人的な悩み等も聞いています。施設長は状況を見てフォローしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境を整え、必要時には職員個々とコミュニケーションをとり、困っている事や悩みを抱えていないか把握に努めている。職員個々が向上心を高める努力を行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修に出てスキルアップできる機会を設けている。働きながらの疑問がある際は、話し合いを儲け、スキルアップへと繋がるようにしている。 法人内で頻繁に研修などが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内でのネットワーク作りや勉強会を通じて同業者とのかかわりを持ち、サービスの質の向上に繋がる取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困っている事・不安なこと・要望等に対し、ご安心して利用していただける様に耳を傾け関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも安心して利用していただけるようにいつでも相談できるような関係作りに努めている。 またお客様とご家族様との関係回復ができるようにも注意をはらっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況把握を必ず行い、自事業所だけではなく、他サービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方の関係ではなく、暮らしを共にする者同士の関係を築き、共に支え合う暮らしを築いている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族様の絆を大切にし、ご家族様と一緒にになってお客様本人を支える関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れる事無く開かれた環境作りをしている。	馴染みの関係が途切れる事がなく、開かれた環境作りに努めています。この項目では求められた時に臨機応変に対応する、喜ぶ「ツボ」を引き出してあげることが大切で、「ツボ」は個々により異なるので話の中から真の要望を探り出すよう努めています。希望が思いである勤め先、思い出の場所、知人の家、お買い物、食べたい物など様々で、ご家族も含め「ツボ」を探すよう努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職印全員で利用者同士の関わり合いを把握し、必要な情報は共有するようにしており、利用者全員が共同して生活できる様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も断続して相談や支援等、関係性を築いている。 お手紙のやりとりや困った時の電話相談なども出来ている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向を全職員で把握し、可能な限り実現できる様努めている。又ご家族様にもご相談し本人の希望に添えるよう支援している。	本人の希望や意向を全職員で把握し、可能な限り実現できるよう努めています。また、ご家族にも相談し、本人の希望に添えるよう支援しています。新しく発見出来た希望・意向・意見及び本人が発した言葉は、新PCシステムソフトに落とし込み、利用者本人が喜ばれたこと等は、ご家族にも伝えていきます。ホームのブログに元気に散歩している写真を掲載し、ご家族は閲覧して「こんなこともしている」と、発見と喜びの声を頂いています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境を含め、本人の背景を理解し、今までの生活環境に近い、安心した暮らしができる様に支援している。 個別のニーズの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から細やかな情報も職員間で共有するように努め、月に1度の個別カンファレンスを行い状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様のご希望も含め必要関係者間とも連携し意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画の作成に努めている。	毎月のケアカンファレンスは、居室担当が新PCシステムソフトの介護計画に打ち込み、打ち出したものを中心にモニタリング、カンファレンスを実施しています。カンファレンスの結果に、本人・ご家族様のご希望も含め、必要関係者間とも連携し、意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。利用者アンケートも実施して要望を聞いています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気づき等の工夫をお客様シート・個別習慣サービス記録に記入して情報の共有化を計り、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズ・状況に多機能に応じ、柔軟な支援やサービスに努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度のハーモニカ・書道・詩吟ボランティア様たちのご協力を頂き、地域との関わりを持ち楽しむ支援を行なっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医を本人様・ご家族様も信頼しており、必要時には適切な報告・相談を行い、連携をはかっている。	事業所のかかりつけ医は2医療機関あり、どちらかを選択してもらっています。本人、ご家族から事業所のかかりつけ医に信頼を頂き、必要時には適切な報告・相談を行い、連携を図っています。看護師は、法人内グループの老人保健施設所属看護師と契約しており、週1回の巡回と24時間オンコールになっています。かかりつけ医の月2回の往診の際には、利用者のチェック表、お客様シート、看護師の記録を準備し、万全を期し、利用者・家族に適切な報告・相談を行い、相互の信頼関係を図っています。内科以外にご家族対応にて通院して頂いています。訪問歯科も往診可能であり、口腔衛生指導も兼ねて受診しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の身体状況について、訪問看護師に相談し、必要な処置・対応がスムーズに行えるようにし、より安心して生活ができる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、相互に情報交換や相談に努め、ご家族様も含めた連携をする体制、関係作りをしている。 入院期間は一応1ヶ月と定めてはいるが要相談で対応。ご家族様の不安がないよう次施設の紹介なども行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる事、出来ない事を見極め、ご家族様・主治医等を含めたチームで支援できる様に取り組み、早期の段階から今後の変化を見据えて検討している。	終末期については、出来ること、出来ないことを見極め、ご家族・主治医を含めたチームで支援できるように取り組み、早期の段階から今後の変化を見据えて検討しています。グループ内に特養、老健もあり、入居の時に特養の申し込みをするなどの選択肢も含め、ご家族と相談し、家族の協力、主治医の了解等の条件が揃えば、看取りを行うこともあります。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてフローチャートを作成してある。しかし訓練の機会を設けられていない。法人内での介護技術のチェックは定期的に行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が災害時に避難できる方法を全職員が見につけられていない。地域との協力体制は築いている。年2回の防災訓練も行っている。	避難訓練は、地域との協力体制を築き、近隣の住民にも声を掛けて年2回行っています。敷地内の駐車場にはコンテナが倉庫用として置かれており、備蓄用品（水、缶詰、レトルト、毛布など）が3日分程度保管されています。消防対応マニュアルがあり、消防組織も編成しています。ホームには火災専用電話機も設置してあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、尊厳をもって生活できる様、言葉かけやプライバシーに配慮した支援を行なっている。	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳をもって生活出来るよう、言葉かけやプライバシーに配慮した支援を行っています。利用者が自分の居場所が作れるよう配慮すると共に、トイレ・お風呂での利用者への対応には、特に職員一同、気を付けて支援するようにしています。入社時に新人オリエンテーションでコンプライアンスの教育プランが組み立てられており、虐待・身体拘束情報及びコンプライアンスルールを事業所内に貼り出しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が伝えようとしている声に耳を傾け、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先して動くことのないようにし、お客様の意識で動けるように支援している。 又やりたい事等の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分の気に入った洋服を見につけていただいている。 又月に一度法人内の訪問美容師に紙を散髪して整えてもらったり、ネイルやお化粧品もして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の体調や状況に考慮した上で盛り付け時のお皿選びから盛り付けやお皿洗いや片付けを職員と共に行っている。	同グループのレストラン部門（山法師）から三食分、調理済みのおかずが配達されています。ご飯はホームで炊き、利用者の体調や状況を考慮して、盛り付け時のお皿選びから盛り付け、お皿洗い・片付け・テーブル拭きを職員と一緒にしています。季節に応じた正月からクリスマスまでの各行事食、お誕生日会やおやつを食べに外食する事もあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様に合った食事形態、盛り付け、味付けにして栄養バランスに配慮した食事を一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人一人の口腔状態に応じ、声掛け、介助により口腔ケアの実施に努めている。又法人内の訪問歯科により、月2回の口腔ケアにも努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの気持ちよい排泄ができる様に一人一人に合わせた、声掛け・トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行なっている。	トイレでの気持ちよい排泄が出来るように一人ひとりに合わせた声かけ、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っています。入所時おむつだった方が、日中・夜間を問わず、トイレ誘導を心がけ、普通の布パンツに戻られた例もあります。失禁した不快感もトイレに行く意欲につながります。各利用者の行動のサインを見逃さないよう努めています。また、尿路感染の可能性も含めて介護に配慮しています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の状態に合わせ、便秘の際には水分をとって頂いたり、飲み物にオリゴ糖を入れるなどして自然排便を促がすようにしている。又こまめな運動・マッサージを行うように努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のできる日には、個々の希望やタイミングに合わせて無理のない声掛けをして入浴を促がし、個々に応じた入浴の支援に努めている。	週2回を基本としていますが、入浴できる日には、個々の希望やタイミングに合わせて、無理のない声掛けをして入浴を促し、個々に応じた入浴の支援に努めています。浴槽は、ユニットバスではなく、滑りにくく、タイル張りの落ち着いた雰囲気のある浴槽を採用しています。着脱の際、音楽をかけると心地良く思う方にはお気に入りの音楽をかけ、気持ちよく入浴できるように配慮しています。また、洗髪の際に水を怖がる方には、留意して対応したり、同性介助希望の方には希望に応じる等、個々に支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて安眠・安心が出来るようにさりげなく支援している。 自由な生活を重視して必要な方のみ起床・就寝介助などをさせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々で服薬している薬の目的や副作用や用法・用量は薬局から頂いている内容表を管理して常に細心の薬内容がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、気分転換、楽しみごとが日々過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のご希望に添い、戸外に出かけられるよう支援している。又ご家族様にも相談して協力しながら外出できる様支援していつ。	利用者の希望に従い、戸外に出掛けられるよう支援しています。最低、週2回位は散歩に出ています。利用者の要望をご家族に伝え、ご家族の協力も得て、希望の場所にお連れ頂くこともあります。ホームのすぐ横の清流の流れる川の土手は散歩に最適で、気候が良くなると散歩に出かけています。同グループの老健の行事に参加する利用者もいます。2~3名で遠出（箱根、芦ノ湖、海など）することもあります。外食に出かけたり、庭でバーベキューすることもあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、職員がお金の管理をさせていただいており、実際にお客様が支払い・所持をする機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話での連絡があった場合などはご本人が返事の手紙を書いたり、電話で話したりできる様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余計なものは置かないようにして不快や混乱を招かないように配慮し、居心地よく過ごせるように毎日掃除を行ない、清潔な環境づくりをしている。又玄関・共同スペースには季節を感じる飾りつけを行なっている。	空間には余計なものを置かないようにして不快や混乱を招かないよう配慮し、利用者が居心地良く過ごせるように毎日掃除を行い、清潔な環境を確保しています。玄関・共同スペースには季節の生け花や、飾りつけを行っています。リビングの壁には、利用者の書道作品や行事の写真が飾られています。リビングの隅に一段高い畳のスペースがあり、机と座イスが置かれ、窓から風景も見え、寛げる場になっています。作品、写真、切り絵の版画などが美的に掲示されています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士で思い思いに過ごせるように職員が常にお客様の関係に目を配り、時にはそのような状況を演出している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や用品を持ち込んでいただき、ご本人が居心地良く、安心して過ごせるようにしている。	居室には、全室エアコン、クローゼット、スプリンクラーが設置され、畳とフローリングの部屋が半々に用意されています。利用者には、馴染みの家具や用品を持ち込んで頂き、本人が居心地よく、安心して過ごせるように配慮しています。各居室のドアには、その部屋の利用者と居室担当のこやかなツーショットの写真に二人の名前を入れて掲示し、和やかな雰囲気を醸しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮してひとり一人が自立した生活を送れる様に工夫を行なっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

社旗福祉法人 一燈会
グループホーム はなの里

作成日

2015年8月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	お客様の要望(ニーズ)をより多く実現する。	お客様やご家族様から、現状以上に喜びの声が聞こえるように努める。	現在のサービス実施内容についても、具体的にご家族への報告内容にムラが生じている。 職員によって意識の統一がなされていない。まずは、現状の実施内容の報告をしっかりと報告する。	1年
2	49	現状以上の外出支援の実施。	施設入居からのお客様のストレス緩和・閉塞感などが生じないように出来るかぎり努める。	個別の要望の把握から、職員一人ひとり行動能力を身につけ、更なる実現を目指すとする。	1年
3	11	職員意見の反映について(現在1階のユニットリーダーが人事異動の為に不在)。	2ユニットにユニットリーダーを配置。	年内に1階ユニットリーダー昇進人事を実施。	6ヶ月
4	65	運営推進会議の開催が出来ていない。	年6回開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議メンバーの再構築。 ・年間計画の作成。 	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム はなの里
ユニット名	萩原ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域に馴染み快適な生活が送れるように周知されている。地域の情報、状況について常に意識し、行動している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々などとのつながりは生活の一部として定着している。行事ごとなどにも積極的に参加させて頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	環境を整えてマイペースでの取り組みは行えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	そこでの意見、要望をなど即座に取り入れ職員同士話し合いサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密な関係性が設けられており、共に協力関係が築かれていて必要時には迅速に情報共有が行えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践	利用者が危険な状況になってしまう時のみ、鍵の施錠をしている。そのような時も一緒に外に出るなどして利用者の精神的な負担にならないよう努めている。		
		代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
7		○虐待の防止の徹底	虐待防止の為に、職員への教育はされていて徹底されているが、高齢者虐待防止法などについて学ぶ機会は設けていない。		
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見人制度については学ぶ機会を設け、情報収集や周知などの事前準備を行いスムーズな活用が行えるように支援している。		
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得	日々の生活の報告、相談、細部に至るところまで十分な説明を心がけ、利用者、ご家族がサービス利用に対して不安がないように努めている。またご家族からも要望をお聞きするように心がけている。		
		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映	面会時、ほか電話などでも日頃の様子報告などを行う場を設けて、意見や要望を聴き職員同士話し合いサービスに反映させている。		
		利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見の聴取やコミュニケーションは日常からとるよう心がけており、日々のケアの向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の不安、不満など配慮し職員ひとり一人が毎日活き活きと活躍できる環境作りや、話し合う、話せる場を設けるなど行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあったペースで教育して育成、研修参加の促しなどに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内外での勉強会への参加などの取組みが行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に応じた期間で、早期に安心確保ができるように務めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前から、利用者の状況、習慣など詳細を聴くようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが何であるか、要望、希望は何かを見極めサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の中に共存して、利用者の生活が介護される一方の立場に偏らないよう、また尊敬の意識を決して忘れないよう、対応を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	友好的でありながら、ご家族へ失礼がないよう、また安心して頂けるように絆を深めるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、日々の生活の中で話題にだしたり、外出の機会を設けたりと対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援	利用者が孤立されないよう、また利用者同士が不快にならない関わり合いが出来る様。職員が常に配慮し行動している。		
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取り組み	定期的な連絡などはおこなっていないが機械がある時は連絡させて頂き交友的な関係が崩れないような努力は行っている。		
		サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握	サービス内容が本人本位なものなのか常に検討、職員同士話し合い行っている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握	過去における情報収やご家族などへの情報収集も入居時には勿論のこと、面会時等にも情報をお聞きするなど行えている。		
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握	職員全員が把握に努め情報の共有、細部も見逃さない様に努めている。		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に居室担当者が面会時、必要に応じては電話などでご家族と話す機会を設け、常により良い暮らしが出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様式はパソコンを活用して情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを把握し既存のサービスに満足せずに、その時に何が一番必要か、希望されていることは何なのかを職員同士意見を出し合い、柔軟なサービスが行えるように務めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の状況に応じた地域資源の活用が行えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に十分な説明をさせて頂きご家族に納得して頂いたうえで、受診後のご家族への報告を含めて適切に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働	パソコンなどを使用してタイムリーな情報共有、口頭でも当日出勤社員が細部まで状況を説明し適切な看護を受けられるよう対応している。		
		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働	医療機関のと友好的関係性、情報交換等を行っている。		
		利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	将来を見据えた対応はチーム全体で行っており準備をし、ご家族にも丁寧に十分な説明をし全体で納得し進めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え	急変対応などは日頃から対応法を職員全体で把握するようにしており、怪我などによる応急手当などは訪問看護師に学び対応出来るようにしている。		
		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	13	○災害対策	災害時における非難方法は訓練もあり、周知はできている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	職員の対応が間違っている時などは職員同士注意し合うようにしており、何がいけなかったのか職員が理解できるように教育している。まだまだ改善、向上の余地あり。			
		一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援	自己決定の支援を行い一度利用者の方が自己決定が難しいとなっても別の表現で表してみるなど努力をしている。それが出来ない職員へ教育はまだ行う必要あり。			
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている				
38		○日々のその人らしい暮らし	ご希望があった時はその時々にあった対応に変更している。ご希望に添えない状況である場合は説明を行い理解していただき、時間を遅らすなどの対応で支援している。			
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している				
39		○身だしなみやおしゃれの支援	職員によってまだまだ身だしなみやおしゃれについての重要性が理解できていない。何の為にやっているか教育する必要性あり。			
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している				
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	利用者にも手伝ってもらい、食事準備、片づけが行えている。そこに尊重の意が必要だがまだ十分理解出来ていない職員ありのため、教育の必要あり。			
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、様子に応じて無理そうな時は時間をずらすなどして、支援を行っている。	/	/
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でのケアが難しそうな利用者には、職員が声かけ、介助をし、一人ひとりに合わせたケアが行えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易な介助方針の変更は行っておらず、一番良い方法を常に提案し実践している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員の知識レベルの向上も行えているので、医療機関との連携をふくめ個々に応じた予防・早期対応が行えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員配置の関係上時間帯の制限ができてしまっているが、可能な限り利用者の希望に沿えるケアを行っている。また、音楽、入浴剤なども工夫してそれぞれに合ったケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人個人のペースでの就寝・起床が行えるように支援されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりがある知識を深め勉強し理解に努めている。また薬の変更などにも合わせて症状観察、記録なども行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意思を大切に、またご家族から助言頂き、生活が単調でつまらないものにならない様、努力している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前に増して外出頻度は増えている。遠方外出やご家族参加なども実現できている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の理解は周知されている。利用については職員管理で行わせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援	年賀状・お手紙のやり取りは希望があれば自由にできており、要望がなくても職員もお勧めするなどして行っている。電話は利用者の要望によってご家族に相談後、了承がとれていれば自由に使用することはできている。親交のある方から施設へのお電話は頻繁にある。		
		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり	季節によつての演出などもされており、不快・混乱を招くような恐れがある物は排除されている。写真を貼るなどして思い出を共有、またコミュニケーションのもとにもなるのですすんで行っている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場	利用者の方が自由に動き生活にあった空間提供はできている。		
		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮	ご本人の要望や好みに合わせて居室担当を中心に行っているが、まだまだ向上できる余地あり。利用者だけでなくご家族に対してもコミュニケーションを更にとって工夫する必要あり。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	役割り分担などもあり、利用者の安全性・快適性・自由度などに配慮してアイデアの発案・実施を行っている。		
		建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

目 標 達 成 計 画

事業所

社旗福祉法人 一燈会
グループホーム はなの里

作成日

2015年8月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	お客様の要望(ニーズ)をより多く実現する。	お客様やご家族様から、現状以上に喜びの声が聞こえるように努める。	現在のサービス実施内容についても、具体的にご家族への報告内容にムラが生じている。 職員によって意識の統一がなされていない。まずは、現状の実施内容の報告をしっかりと報告する。	1年
2	49	現状以上の外出支援の実施。	施設入居からのお客様のストレス緩和・閉塞感などが生じないように出来るかぎり努める。	個別の要望の把握から、職員一人ひとり行動能力を身につけ、更なる実現を目指すとする。	1年
3	11	職員意見の反映について(現在1階のユニットリーダーが人事異動の為に不在)。	2ユニットにユニットリーダーを配置。	年内に1階ユニットリーダー昇進人事を実施。	6ヶ月
4	65	運営推進会議の開催が出来ていない。	年6回開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議メンバーの再構築。 ・年間計画の作成。 	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。